



令和4年度 自己評価・学校関係者評価書

学校法人富塚学園 湖東幼稚園長 山口 崇
 学校関係者評価委員長 鈴木 路子

1 幼稚園の教育目標

・やる気のある子 ・けじめのある子 ・思いやりのある子

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

・保育者の資質向上 ・主体的で対話的な深い学びとなる保育の実践

3 評価項目の達成及び取組状況及び今後の課題への取り組み方法

(評価 A・・・良い B・・・やや良い C・・・成果なし D・・・悪い)

評価項目	結果	理由及び改善策	関係者 評価
教育課程・指導	B	<p>保育では自由遊びの時など、子どもたちの気づきや発想を捉え、そこから学びが深まるよう環境構成を心掛けた。また子どもたちが体験して感じたことをクラスで共有し、より興味・関心を深められるような援助を行っていった。</p> <p>昨年度の自己評価にて課題となっていた異年齢の交流については、年間を通じて触れ合えるよう計画を立て、交流内容について発達差を考慮しながら実施した。</p> <p>指導計画についてなるべくゆとりを持たせ、子どもたちのその時の関心に合わせた保育が行えるよう配慮していった。ただ一つの活動から次の展開が生み出されたり、更に活動を深めていくことがあまり出来ていないことが多かった。また職員リーダーが行う様々な保育実践が指導計画と結びついておらず、クラスによって活動が短時間で終わってしまうこともあった。</p> <p>そのため年間、月、週の長期・短期の指導計画にて育ちのねらいを明確にし、活動の連続性を高められる保育内容となるよう指導計画を策定していく。</p>	A
教職員の資質・連携	A	<p>保健衛生、学校安全、保育実践（環境、食育、言葉、健康）の各分野の職員リーダーが園内研修を運営し、また年間通じて計画された各分野のコーナー保育を連携して行った。</p> <p>学年チームにおいてはマネジメント能力育成のため、園内研修にてファシリテーションを学び合い、会議にて円滑なコミ</p>	A

		<p>ユニケーションが行うためのスキルを学んだ。</p> <p>また昨年度の自己評価で課題となっていた「幼児期の終わりまで育てたい10の姿」について研修担当による園内研修を行い、理解が深まるよう努めた。</p>	
保護者との連携	B	<p>行事等ではコロナ禍により引き続き感染対策に留意していったが、人数制限の緩和などなるべく保護者が園活動に参加できるように行っていった。次年度は更に多くの機会にご参加いただけるよう検討していく。</p> <p>各クラスの様子を伝えるドキュメンテーションは、今年度より月1回の頻度で発行していった。内容に関して、その時に子どもたちが興味・関心を持っていることを取り上げていたため、日常の姿や学びが伝えやすくなった。</p> <p>おひさま通信ではエピソードの様子や会話をなるべく詳しくお伝えし、頑張っていること、夢中なことを取り上げるよう心掛けた。ただ年3回のタイミングだけではお伝えできないことも多いため、個人懇談等他の手段にてお伝えできるよう心掛けていく。</p>	A
保護者アンケート	A	<p>176家庭（回収率78%）から回答を頂き、多くの評価項目でAまたはB評価を頂けた。また自由記述として「いつも幼稚園を楽しみにしている。家に帰って、幼稚園は楽しい？と聞くと、笑顔で楽しい！と答えてくれます。」や「保育で経験したことを家に帰ってから再現してくれる姿をみて、毎日充実した園生活を起これているのだなと嬉しく思います。」他、造形展のご感想など、多くのコメントを頂くことができた。</p> <p>その他コロナ感染対策、バス乗降管理の安全対策についてご意見もあり、保育環境の向上のため引き続き改善を行っていく。</p>	A

4 学校関係者評価委員会からのコメント

今年度もコロナ禍の影響の中で先生たちが園での様子を工夫して伝えてくれる場面が多く、先生たちの負担に悩んでいるのではと心配になる事もありましたが、子どもたちの成長を動画や通信などで知る事ができ喜ばれた。また、今年度から再開する事ができた行事もいくつかあり、PTA役員をしていただいたら見られなかった子どもたちの姿をたくさん見る事ができ、役員としても貴重な経験を得る事ができました。

今年度から以前のように役員以外の保護者の方々にも参加できる遠足などの行事が再開できれば、より一層幼稚園側と保護者の接する機会が増え、お互い高い信頼感と安心感を得る事ができるのではと思います。

そして今後は家庭内での遊びや交流だけでなく育てられたい興味や関心、知識を学べる場としてこれから期待するとともに協力していけたらと思います。